

ベストセラーリストの考察

川井良介

A 研究目的と研究方法

1. 研究目的

ベストセラーとは、「ある期間（多くは1週間，1カ月あるいは1年間）にたいへん評判となり，ほかの本と比べて大部数売れた書籍」（『電子版 日本大百科全書』¹⁾）であるということについて，すでに確認されたところである。

一般にベストセラーは，ベストセラーリストに提示されることから，ベストセラーとは「ベストセラーリストに掲示されたもの」だともいえるかもしれない。それでは，現代日本においては，どのようなベストセラーリストがあるのだろうか。本研究は，各ベストセラーリストの歴史や作成方法，あるいは，特徴などを明らかにしようとするものである。

2. 先行研究

ベストセラーそれ自体についての学術研究は，真に少ない。調査した限りでは，筆者の執筆した論稿2本しかないようである。

「ベストセラーリスト」についても，拙稿「ベストセラーリストの分析（予備的研究）」以外，その学問的研究は見出すことはできなかった。研究ではないが，国立国会図書館の「リサーチ・ナビ」の「ベストセラー」では，出版ニュース社，トーハン，日本出版販売，出版科学研究所のベストセラー・リストの概要がアップされている。

3. 研究方法

本研究の研究方法は，文献の考察と公式サイト閲覧，関係者へのインタビューである。

文献は，ベストセラーリストを掲載している刊行物やそれを公表している機関の社史などである。今日，多数の機関は公式サイトを開設して，ベストセラーリストをアップしている。このようなことから公式サイトを閲覧した。関係者へのインタビューは，主に，2013～14年にかけて実施した。

B ベストセラーリストの考察

今日、全国的なベストセラーリストは5つある。各地の代表的な書店の販売傾向を総合した出版ニュース社によるもの、大手取次会社トーハン、日販（日本出版販売）によるもの、トーハンのデータに基づく出版科学研究所によるもの、そして、全国・地方書店チェーンなどの協力によるオリコンによるものがある。

これらのベストセラーリストについて、

- ①ベストセラー調査の歴史
- ②ベストセラーリストの作成・公表の目的
- ③ベストセラーリスト作成方法
- ④ベストセラーリストと特徴

を明らかにする。

(1) 出版ニュース社

出版ニュース社のベストセラーリストは、「月間」のそれが、毎月、雑誌『出版ニュース』（下旬号）に、「年間」のそれが『出版ニュース』『出版年鑑』にそれぞれ掲載される。

1946年、『出版ニュース』は日配（日本出版配給株式会社）の機関誌として創刊された。1949年、日配の閉鎖によって、同誌は10月上旬号より出版ニュース社によって発行されるようになる。

①ベストセラー調査の歴史

ベストセラー調査は、1949年の日配時代に始まる²⁾。

表1 ベストセラー調査の対象地区（1949年）

調査地区	頒布（枚）	回答数（枚）
東京及近県	30	7
大阪支店区	15	12
京都支店区	10	5
九州支店区	15	8
名古屋支店区	10	4
長野支店区	10	7
北海道支店区	15	4

『出版ニュース』1949年5月上旬号より作成

表1のように、日配の営業地域別に105の書店に「最近貴店でのベストセラーと思う書籍

を5点ほどお知らせ下さい」と質問している。その結果が表2「ベストセラーリスト(1949年)」(10月15日～31日)である。調査の回答数は47通であり、50%にも満たない。

表2 ベストセラーリスト (1949年)

	著者	書名	出版社名	得票数
1	永井隆	この子を残して	講談社	36
2	花山信勝	平和の発見	朝日新聞社	32
3	谷崎潤一郎	細雪	中央公論社	27
4	倉澤剛	近代カリキュラム	誠文堂新光社	11
5	吉川英治	親鸞	講談社	9
6	ミッチェル	風と共に去りぬ	三笠書房	9
7	—	現代用語の基礎知識	時局月報社	8
8	永井隆	長崎の鐘	日比谷出版社	7
9	天野貞祐	生きゆく道	細川書店	7
10	—	遙かなる山河に	東大協同組合出版部	5
11	樋口欣一	ウラルを越えて	乾元社	4
11	田邊元	哲学入門	筑摩書房	4
11	—	社会科事典	平凡社	4
14	三木清	人生論ノート	河出書房	3
14	吉野俊彦	九原則と経済安定	労働文化社	3
16	—	藤村全集	—	2
16	—	学生年鑑	—	2
16	—	西洋史	—	2
16	—	科学の教室	—	2
16	—	若きヴェルテルの悩み	—	2
16	—	経済学入門	—	2
16	—	ロザリオの鎖	—	2
16	—	或る遺書について	—	2

表1に同じ

この調査報告で、「東京及び近県からの回答の案外少なかったのは淋しかった」と述べているように、首都圏の反応は乏しかった。一方、大阪支店区は、12通と8割という高い回答率である。このような調査は、初めてのためか、「ベストセラー5点記入のところを2点

図1 第一號ベストセラーズ

第一號ベストセラーズ		
一般図書		
1	共産主義批判の常識(新潮社)	23票
2	軍艦大和(銀座出版社)	20票
3	風と共に去りぬ全四巻(三笠書房)	16票
4	石中先生行状記(新潮社)	14票
4	世界文學全集ゲーテ(河出書房)	14票
4	哲學入門 1~2(筑摩書房)	14票
7	現代日本小説大系(河出書房)	12票
8	テポ-家の入々各巻(白水社)	8票
8	宮本武蔵各巻(六興出版社)	8票
10	現代用語の基礎知識(自由國民)	6票
専門図書		
1	世界史の研究(旺文社)	6票
1	哲學小辭典(岩波書店)	6票
3	マルクシズムに對決するもの (労働文化社)	5票
3	新制大學入試問題正解(旺文社)	5票
3	六法全書	5票
6	建築工學ポケットブック(建築學會)	4票
7	初等微分積分學(裳華書房)	3票
7	ラジオ技術教科書 上下 (放送出版協會)	3票
7	世界人名辭典(平凡社)	3票
10	倫理學三巻(岩波書店)	3票
児童図書		
1	日本少國民文庫(新潮社)	12票
2	少年百科 1~4(日米出版社)	5票
3	イソップ物語(講談社)	4票
3	リンカーン(講談社)	4票
5	少年朝日年鑑(朝日新聞社)	3票
5	少年王者(集英社)	3票
5	世界おとぎ文庫(小峰書店)	3票
8	ビルマの堅琴(中央公論社)	2票
8	小學文學讀本(河出書房)	2票
8	少國民文庫世界のなぞ(新潮社)	2票

『出版ニュース』1949年11月中旬号

に止めたのが2店ある他は全て記入されていた」が、「発行所名、著者の無記入、誤りが多かった」という。この記事では、第11位以下第16位まで23点の本がリストアップされている。

これから6ヶ月後、突然、「記録ものから文学ものへ／ベストセラーズ第一号³⁾」という記事が掲載される。これは、全国小売書店200店を対象とした調査結果で、図1「第一號ベストセラーズ」にみるように「一般図書、専門図書、児童図書」の3部門からなる。この記事は、「第一号調査の発表は、回答による票数を基準としてひとまづ順位をつけました。これは発行部数に対する売れ行き部数を比較してベストセラー順位とすべき点もありますが、票数による順位は、これを代弁するものであり、更に各地の要望と思われるものと存じまして、票数をもってベストテンまでを連記しました」と、この調査の特徴や限界性を指摘している。

なお、このベストセラーリストの「専門図書」には、『世界史の研究』や『新制大学入試問題正解』など、学習・受験参考書がランクインされている。

このようなベストセラー調査は、1950年の1月まで4回実施された。それぞれの対象期間と対象書店数は以下のとおりである。

第2次(対象期間1949年10月~11月)対象250店⁴⁾

第3次(対象期間1949年11月初旬~12月初旬)対象250店⁵⁾

第4次(対象期間1949年12月~1950年1月初旬)⁶⁾

第3次調査結果の記事において、「このベストセラーズ調査も段々その重要性が認識され、続々協力を申込まれる書店の多い事は全く有り難い事」といいながら、一番得票数の多い「一般図書」部門の合計は、第1次は135票、第2次は80票、第3次は64票である。第4次は10点のベストセラーが紹介されているが、それぞれの得票数は提示されていない。文字通り先細りである。これは、余りの低い回答率のために、その提示を控えたと窺わせるもの

である。この状況は「ベストセラーズを毎月調査することについては多くの困難があり、殊に良書の充分行きわたらない地方では至難のこととされます⁷⁾」というように、書籍の地域による普及状況も大いに関係していたかもしれない。

第4次調査の記事から5ヶ月後、「ベストセラーの調査は一時中止の状態でありましたが、小社は一周年を迎えるに當り、構想を新たに、十月期より全国各都道府県各々の著名書店の協力を得て」ベストセラー調査を実施するという予告記事⁸⁾が掲載される。

これを受けて、1950年11月、図2「全国ベストセラーズ調査(1950年10月期)」が掲載される。この表は、これまでのような部門別の区分はない。また、ベストセラー本の合計得点は提示されているが、個々の書店におけるベストセラー本のポイント数が示されず、★が記されているのみである。北海道・東京は3店、大阪府は2店が対象となっている。しかし、群馬、長野、石川、兵庫(神戸)、福岡、大分、熊本の7県について空白である。さらに沖縄については欄自体が設定されていない。このような12ヶ月間にわたる合計が「1951年度全国ベストセラーズ調査」(図3)結果に結実する。この表では、月例調査と違い、ベストセラー本の個別書店におけるポイント数が明示されている。

以上のように、『出版年鑑』の年間ベストセラー調査は1951年に始まる。しかし、出版ニュース社の『出版データブック 1945-1996』は、遡って1946～50年までのベストセラー上位10点が掲載されている。このデータの出所は、現段階では不詳であるという。

②ベストセラーリストの作成・公表の目的

『出版ニュース』のベストセラーリスト作成に40年以上携わっている編集長の清田義昭氏は「60年以上前にベストセラーリストが必要だと作成・公表が始まった。今、これを止める特別の理由はない。したがって、これを続けている」という。

③ベストセラーリストの作成方法

現在、ベストセラーの調査対象書店(2014年2月期)は、全国の有効書店46店である。すなわち、東京の3店、大阪・北海道の各2店と、他の府県の各1店である。もっとも、富山、和歌山、香川、宮崎の各県には、調査対象店はない。これら46店のうち有力な全国チェーンのジュンク堂は札幌、京都、大阪、岡山、鹿児島、那覇の6店、紀伊國屋書店は弘前、東京、宇都宮、大津、熊本の5店が調査対象となっている。

『出版ニュース』のベストセラーリストは、60年以上の長い歴史があるためか、調査対象店の多くが替っている。試みに、1951年度(図3)の調査対象店と比較する。ちなみに、この1951年度は、沖縄県を除く、全都道府県をカバーしている。2014年2月期においても対象店であるのは、山形(五十嵐八文字屋—八文字屋)、盛岡(玉山東山堂—東山堂)、仙台(金港堂—仙台金港堂)、福島(西沢書店—西沢福島支店)、東京(東京堂)、東京(紀伊國屋)、横浜(有隣堂本店)、浦和(須原屋)、水戸(川又書店)、前橋(煥乎堂)、長野(西沢書店)、金沢(宇都宮書店—うつのみや書店)、津(別所書店)、松江(今井書店)、広島(広文館—

ベストセラーリストの考察

図2 全国ベストセラーズ調査 (1950年10月期)

書籍名 書店名	風と共に去りぬ(5)	二十五年時	哲學用語辭典	讀書論	解析の研究	ぶらりひょうたん	大地(3)	少年美術館	世界史の研究	長篇小説名作全集(山手樹)郎	佐々木小次郎(中)	哲學初歩	少年名作叢話全集	第三貧乏物語	洋裁全集	愛と認識との出發	文學入門	善の研究	良き時代の良き大學
富貴堂(札幌)	★		★			★			★				★						
榮文堂(函館)	★		★						★										
丸文堂(小樽)	★	★			★					★	★								
今泉本底(弘前)	★		★			★			★			★							
石川八文字屋(山形)	★	★			★														★
五十嵐東山堂(岩手)	★	★				★				★	★					★			
玉金港堂(宮城)	★	★																	
西澤書屋(福島)	★		★	★					★							★	★	★	
東京堂(東京)	★			★							★		★						
紀伊國屋(〃)	★	★	★		★							★							
三越堂(〃)	★	★				★	★												
有馬堂(神奈川)	★			★	★					★									
中島書屋(千葉)	★	★	★	★	★				★										
須原屋(埼玉)	★	★	★	★	★														
川又書屋(水戸)	★		★	★	★				★										
葉英堂(群馬)	★	★			★			★	★										
須藤書屋(山梨)	★	★	★		★	★													
文求堂(新潟)					★				★	★									
中田書屋(富山)	★				★			★	★					★					
品川書屋(石川)	★	★			★	★			★										
品川書屋(福井)	★				★	★													
精文館(豊橋)	★	★			★	★			★										★
大衆書屋(岐阜)	★		★		★					★				★					
大衆書屋(大津)	★		★		★			★											★
萬字堂(京都)	★	★	★																
阪急(大阪)	★				★	★													★
丸善(神戶)	★				★	★		★					★						
別所書店(三重)	★		★			★									★				★
木原文進堂(奈良)	★	★								★									
宮井平坂堂(和歌山)	★					★				★	★		★						
鳥取書局KK(鳥取)	★	★	★	★							★								
今井書店(島根)	★	★			★	★			★										
吉田書店(岡山)	★	★			★			★											
廣文館(広島)	★	★			★			★											
白銀日新堂(山口)	★	★			★				★				★						
宮武書社(香川)	★	★				★								★		★			
宮武書社(愛媛)	★		★	★												★			
片岡開成館(高知)	★					★			★		★					★			★
小山助學館(徳島)	★						★	★		★	★								
大坪書店(佐賀)	★	★	★			★			★										
好文堂(長崎)	★	★	★		★										★				
(大分)																			
(熊本)																			
田中書店(宮崎)	★	★							★						★	★			
吉岡書店(鹿児島)	★	★	★						★	★									
採 點 合 計	43	29	17	16	15	14	13	13	10	7	7	6	5	5	3	3	2	2	2

(註) 上掲の各書店より十月期ベスト5の調査の結果、以上の集計が出たものであります。四頁下段参照のこと。

『出版ニュース』1950年11月下旬号

図3 1951年度全国ベストセラーズ調査

書籍名 書店名	調査												読 者 層								
	少 年 期	少 年 期	少 年 期	少 年 期	少 年 期	少 年 期	少 年 期	少 年 期	少 年 期	少 年 期	少 年 期	少 年 期									
富 丹 堂(札幌)	5	4	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	読者層						
栄文堂(函館)	4	3	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	読者層						
丸文堂(小樽)	4	6	2	1	3	2	2	2	1	1	1	2	2	1	読者層						
今泉本(弘前)	4	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	読者層						
石川書(秋田)	2	4	2	1	3	2	2	1	2	1	1	3	1	1	読者層						
五十八屋(山形)	2	3	2	2	1	3	1	1	1	1	1	2	1	1	読者層						
東山堂(岩手)	2	4	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	2	読者層						
金港堂(宮城)	3	1	2	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	読者層						
西澤書(福島)	2	6	2	2	1	3	1	1	1	1	1	3	2	1	読者層						
東京堂(東京)	7	3	2	3	1	3	2	1	2	1	1	2	2	1	読者層						
紀伊屋(〃)	7	3	1	3	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	読者層						
三越本(〃)	6	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	読者層						
有隣堂(神奈川)	9	3	2	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	3	読者層						
中島屋(千葉)	6	2	2	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	2	読者層						
須原屋(埼玉)	6	2	2	1	1	2	1	1	1	1	2	2	1	1	読者層						
川又書(水戸)	8	5	1	2	2	1	1	2	1	1	1	2	2	1	読者層						
集英堂(栃木)	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	読者層						
松平堂(群馬)	7	4	1	1	2	3	1	1	1	2	1	1	1	1	読者層						
須藤書(山梨)	3	4	2	2	1	3	1	2	2	1	1	2	2	2	読者層						
西澤書(長野)	2	3	2	2	1	2	1	2	1	1	2	1	1	1	読者層						
文求堂(新潟)	2	5	3	3	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	読者層						
中田書(富山)	1	1	1	2	1	1	2	1	2	2	1	1	2	2	読者層						
宇都宮書(石川)	2	3	2	1	1	2	1	2	2	1	1	1	1	1	読者層						
品川書(福井)	5	5	1	1	2	1	1	2	1	1	3	1	2	2	読者層						
谷島屋(静岡)	8	4	2	1	2	2	1	1	2	1	1	1	2	2	読者層						
精文館(豊橋)	3	2	3	1	2	1	2	2	1	2	1	1	2	1	読者層						
大泉堂(岐阜)	9	3	1	1	2	1	2	2	2	2	1	2	2	1	読者層						
文泉堂(大津)	3	7	1	4	2	1	1	2	2	1	2	3	1	2	読者層						
萬葉堂(京都)	4	3	2	2	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	読者層						
阪急(大阪)	8	3	3	1	2	2	1	2	1	2	1	1	1	1	読者層						
丸文堂(〃)	4	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	読者層						
大阪文館(神戸)	5	2	2	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	読者層						
別所書(三重)	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	読者層						
木原文堂(奈良)	2	6	3	2	1	2	2	2	2	2	1	1	1	2	読者層						
宮井平安堂(和歌山)	6	4	3	1	2	2	2	2	1	2	2	1	1	2	読者層						
鳥取書局(K鳥取)	5	6	2	2	1	2	1	2	2	2	2	1	1	1	読者層						
今井書(島根)	5	1	2	2	1	3	1	2	2	1	1	3	1	2	読者層						
吉田書(岡山)	4	3	2	1	2	2	1	1	1	2	1	1	2	2	読者層						
廣文館(広島)	5	3	2	2	1	1	1	2	1	1	3	3	1	2	読者層						
白銀日進堂(山口)	6	6	3	2	1	2	1	2	2	1	2	1	2	1	読者層						
宮武書(香川)	1	4	2	3	2	2	2	1	2	1	1	1	2	2	読者層						
弘文社(愛媛)	4	3	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	読者層						
片桐成館(高知)	4	4	3	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	読者層						
小山助學館(徳島)	5	1	3	2	1	2	1	1	1	1	1	3	1	1	読者層						
積文館(福岡)	3	2	2	1	2	2	1	1	1	2	1	1	1	1	読者層						
大坪書(佐賀)	6	4	3	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	読者層						
母文堂(長崎)	6	6	3	1	2	1	2	1	1	1	2	1	1	1	読者層						
晃星堂(大分)	5	2	2	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	読者層						
金龍堂(熊本)	5	3	2	2	2	2	2	1	1	1	2	1	2	1	読者層						
田中書(宮崎)	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	読者層						
吉田書(鹿児島)	5	6	3	1	2	1	1	2	1	1	2	1	2	1	読者層						
採 算 合 計	233	174	88	69	66	61	53	53	49	48	47	44	43	43	41	40	40	39	38	37	

(註) 本表は(上掲書店の協力により毎月ベスト5を調査した(毎月中旬発表表)ものを1951年度12ヶ月分を合計したほか、調査カード延滞のための未掲載分を加算した得点数であります。

『出版ニュース』1952年1月下旬号

ベストセラーリストの考察

広文館金座支店), 高知(片桐開成館), 徳島(小山助学館), 福岡(積文館—積文館書店), 長崎(好文堂—好文堂書店), 大分(晃星堂—晃星堂書店)の19店である。2014年2月期の調査対象店は先にみたように富山など4県には調査対象店がない。1951年度と比較するために沖縄県を除くと45店になる。

さて、これら書店が毎月、販売部数の多い書籍5点をファックスで出版ニュース社に報告する。すなわち、各書店において、毎月最も売れた本を5点選び、販売部数第1位のものに5点、第2位のものに4点、第3位に3点、第4位に2点、第5位に1点をそれぞれ与える⁹⁾。

このようなポイント方式では、同じ点数でも、販売部数は異なる可能性がある。たとえば、現在、調査対象の東京・紀伊國屋書店。この本店は、日本有数の繁華街の新宿通に面している。一方、甲府のチョコレート書店。甲府の人口は20万未満であり、同書店は甲府の繁華街やメインストリートに位置しているわけではない。以上のような両者の立地条件からすれば、同じポイントでも、それが意味する部数は大きく違うだろう。

以上のようなベストセラーリストのランキングと販売部数の乖離¹⁰⁾については、先に引用した1949年11月発表のベストセラー調査報告記事で、「……発行部数に対する売れ行き部数を比較してベストセラー順位とすべき点もありますが、票数による順位はこれを代弁するものであり」と言及している。

さらには、『出版年鑑1953』掲載の「1952年度全国ベスト・セラーズ」(図4)では、各ベストセラー本にそれぞれの推定発行部数を提示している。これによれば、部数6万5千部の『千羽鶴』が第5位であるのに対して、15万部の『少年朝日年鑑』が第14位、10万8千部の『三等重役』が第7位である。発行部数は必ずしも販売部数と連動するものではないが、大いに関係していることは容易に推測できることである。このような指摘は、その後も何回か『出版年鑑』で自ら展開している。

ところで、書籍の刊行形態は、単行本と叢書に大別される。文庫本や新書本あるいは全集本は叢書に分類される¹¹⁾。

『出版ニュース』のベストセラーリストは、以下のように、いくつかのジャンルの本を除いた「総合」リストである。そのリストは、他のそれと違って、文庫本も対象としている。現在、予め「マンガ本」「ゲーム攻略本」「教科書」「学習参考書」は対象としていない。「児童書」「絵本」「実用書」については、売れて話題になれば、『出版ニュース』の編集部から調査対象の書店に、売行のよい本について、具体的な書名を挙げて回答を求めているという。

④ベストセラーリストと特徴

これまでみたように、『出版ニュース』の下月号には、前月の「月間ベストセラーズ調査」が掲載される。これら毎月の調査が総合され、一年間のベストセラーが『出版ニュース』と『出版年鑑』に掲載される。

出版ニュース社のリストは、現在も続き最も古い。文庫本をも対象とする「総合」リスト

である。このリストは、販売実績そのものではなく、全国の有力書店の販売傾向を示すものである。このような限界性をもつベストセラーリストではあるが、日本全国の各地域での販売傾向を一覧できる意義は大きい。

図4 1952年度全国ベスト・セラーズ (出版ニュース社調べ)

順位	書名	著者名	発行所	定価	採点合計	発行部数
1	新唐詩選	吉川幸次郎	岩波書店	100	167	17万
2	人間の歴史 (1)	三好達治	光文社	230	109	10万
3	ニッポン日記 上	マーク・ゲイン	筑摩書房	200	107	16万
4	ニッポン日記 下	井本威夫	"	220	100	14万
5	千羽鶴 (普及版)	川端康成	"	250	94	6万5千
6	生きている日本史	高木健夫	鱗書房	280	85	9万
7	三等重役	源氏鶏太	毎日新聞社	180	85	10万8千
8	昭和文学全集 横光利一集	横光利一	角川書店	280	75	10万
9	泣虫記者	入江徳郎	鱗書房	180	69	8万
10	丘は花ざかり	石坂洋次郎	新潮社	230	68	7万
11	現代世界文学全集 ジャン・クリストフ (1)	ロマン・ローラン 豊島与志雄訳	"	350	59	10万
12	現代世界文学全集 異邦人・ベスト	カミ 窪田・宮崎訳	"	300	57	10万
13	岩波写真文庫 島	岩波書店編	岩波書店	100	54	8万
14	少年朝日年鑑	朝日新聞社編	朝日新聞社	380	52	15万
15	続・三等重役	源氏鶏太	毎日新聞社	180	51	8万3千
16	伊号58掃投せり	橋本以行	鱗書房	200	46	6万
17	戦艦大和の最期	吉田満	創元社	160	46	5万1千
18	続・生きている日本史	高木健夫	鱗書房	280	44	6万5千
19	人間の歴史 (1)	安田徳太郎	光文社	230	42	11万
20	続・泣虫記者	入江徳郎	鱗書房	180	39	6万5千

註・本表は全国の都市中有力書店五二軒の協力により毎月実際の売れ行きによるベスト5を調査したものを一九五二年十二月分を合計したものである。順位である。推定部数は本年一月現在の発行所の発表による発行部数である。

調査書店 北海道地区一札幌・富貴堂 函館・栄文堂書店 小樽・丸文書店
 旭川・旭川富貴堂 東北地区一弘前・今泉本店 秋田・石川書店 山形・八文
 宇屋書店 岩手・東山堂本店 宮城・金港堂 福島・西沢書店 関東地区一東
 京・東京堂 紀伊国屋 三越本店 神奈川・有隣堂本店 千葉・中島書店 埼
 玉・須原屋 水戸・川又書店 栃木・集英堂書店 群馬・挨拶堂 甲信越地区
 一山梨・須藤書店 長野・西沢書店 新潟・文求堂書店 富山・中田書店 石
 川・宇都宮書店 福井・品川書店 東海地区一静岡・谷島屋 豊橋・精文館
 岐阜・大衆書房 滋賀・長浜文泉堂 関西地区一京都・万字堂 大阪・阪急
 丸善 神戸・大阪宝文館 三重・別所書店 奈良・木原文進堂 和歌山・宮井
 平安堂 中国地区一鳥取・鳥取書籍KK 鳥根・今井書店 岡山・吉田書店
 広島・広文館 山口・白銀日進堂 四国地区一香川・宮武書店 愛媛・弘文社
 書店 高知・片桐開成社 徳島・小山助学館 九州地区一福岡・積文館書店
 佐賀・大坪書店 長崎・好文堂書店 大分・晃星堂書店 熊本・金龍堂書店
 宮崎・田中書店 鹿児島・吉田書店

『出版年鑑 1953年』

ベストセラーリストの考察

(2) トーハン

先に述べたように1949年、日配は閉鎖された。これを受けて、東京出版販売（現トーハン）や日本出版販売（日販）などの取次が設立された。

①ベストセラー調査の歴史

トーハンにおけるベストセラーリストの歴史を参照できる資料は、書店向けの広報誌『東販週報』1976（昭51）年1月2・9日合併号掲載の「昭和50年度年間売行良書」である。これは「総合30位」「全集・フィクション・ノンフィクション各20位」のリストであるという¹²⁾。

しかし、『東販二十年史』（1969年）の「第3章 書籍の発行変遷」には、「戦後のベストセラーズ」として、1946～1968年までのベストセラーが記載されている。このうち1960年以降は、「単行本」と「全集本」に分けて、それぞれのベストテンが示されている。さらには、『東販三十年史』（1979年）にも、「業界関係資料」として、「戦後のベストセラーズ」として、先の『東販二十年史』に続いて、1978年までのベストセラーが提示されている。これらはいずれも「資料：全協・出版科学研究所」と出典が記されている。

以下でみるように、かつてトーハンの一部署であった出版科学研究所の『出版指標年報』には、1946年以降のベストセラーリストが掲載されている。したがって、東販が発足した以降、ベストセラーリストが作成された可能性は大いに推測できることである。

②ベストセラーリストの作成・公表の目的

トーハンの広報室アシスタントマネージャーの伊藤美和氏は、トーハンにおけるベストセラーリストの作成・公表の目的を以下のように3点にまとめている。

- ① 出版トレンドを明らかにする
- ② 読者の選書の参考のための情報提供
- ③ マスコミの要望に応える

③ベストセラーリストの作成方法

ベストセラーリストの作成方法は、POSシステム導入の前後において大きく異なる。POSシステム導入以前は手作業による作成である。

① POSシステム導入前

仕入れ、販売、店売などの各担当者数人からなる横断的組織が、毎週1回集まってリストを作成する。すなわち、ベストセラー候補の「発行部数」を記したカードを用意し、店売における「売れ行き良好書」の状況を基に、販売状況を推定し、ベストセラーリストを作成する¹³⁾。「店売」とは、取次において直接、小売書店に販売することをいう。首都圏の書店では、売れ行きのよい本を売るために、直接、取次に仕入れに来る。それだけに、店売における販売の状況は、ベストセラーリスト作成のための重要な指標となる。

このようにして得られた週間のリストを合計し、月間のそれを、さらに月間のそれを合計

して年間のベストセラーリストが作成される。

⑥ POS システム導入後

1985 年、トーハンの「TONET 書店 POS システム」が稼働し¹⁴⁾、POS システムをベストセラーリスト作成に活用する環境が準備された。これが、いつからリスト作成に使用されたのかは、現段階では不詳である。早くても 1990 年代以降と推測される。

ともあれ、POS システムによるベストセラー本の部数は、それまでと比べ、正確な部数を明らかにするものである。また、POS システムの利用は、以下のような様々なジャンルのベストセラーリストの作成を可能にした。

トーハンの「週間リスト」は取引書店 1500 店のデータに基づいて作成される。「月間リスト」「年間リスト」については、「週間リスト」に新たな情報が加味されるという¹⁵⁾。

トーハンの第一のベストセラーリストは「総合」である。以下にみるように「総合」のリストは、いずれも「全集」と「文庫本」が除外されている。ここでいう「全集」は、予め巻数が予定されている叢書のようなのだ。したがって、今日、「年間ベストセラー」などにランキングされる「新・人間革命」は、その最終刊が予定されていないので「全集」に入らない。

「文庫本」が除外されているのは、「文庫本」が基本的に単行本などの 2 次出版であり、ま

表 3 トーハンのベストセラーリスト一覧

	年間 ベストセラー (前年 12/1 ~ 当年 11/ 末まで)	上半期 ベストセラー (前年 12/1 ~ 当年 5/ 末まで)	週間 ベストセラー
総合*	○	○	○
文庫総合	○	○	—
単行本文芸	○	○	○
単行本ノンフィクション他	○	○	○
単行本ビジネス	○	○	○
単行本ゲーム関連書	○	○	—
単行本児童書	○	○	—
単行本実用書	○	○	—
新書ノベルス	○	○	○
新書ノンフィクション	○	○	○
全集	○	○	—
コミックス	—	—	○

* 「文庫」「全集」は含まない。
「公式サイト」より作成

ベストセラーリストの考察

た、単行本と違って、初版の部数をはるかに大きいからである。もっとも、「文庫本」は重要な商材であるため、トーハンは、2011年から「文庫総合」というランキングリストを発表している。トーハンの「総合」リストは、これ以外に、「教科書」「学習参考書」「辞書」は対象としない。

取次では、出版物は大きく「書籍・雑誌・コミックス」と分類される。このようなことから、「コミックス（マンガ本）」は除外される。一方、「ゲーム攻略本」「児童書」「絵本」「実用書」は対象となる。

④ベストセラーリストと特徴

トーハンのリストは、その取引書店1500店のPOSデータを基礎としている。表3にみられるように、「年間ベストセラー」「上半期ベストセラー」「週間ベストセラー」の3種類のリストを作成・公表している。

これらのジャンルは、「総合」「文庫総合」「単行本・文芸」「単行本・ノンフィクション他」「単行本・ビジネス」「単行本・ゲーム関連」「単行本・実用書」「新書・ノベルス」「新書・ノンフィクション」「全集」「コミック」の12である。

その「総合」リストは、「文庫」や「全集」を対象としていない。

(3) 日販

前に述べたように、日販も1949年に設立された。

①ベストセラー調査の歴史

日販のベストセラー調査は、1956（昭和31）年から始まったと考えられる。1995年発行された小冊子の『戦後のベストセラー 1946-1995』は、1946年から95年上半期までのベストセラーリストであるが、「昭和31年以降 日販調べ」という記載がある¹⁶⁾。また、これには、「昭和21～30年 出版ニュース社調べ」「昭和21から25年までは順位不確定」と記載している。

もっとも、『日販四十年のあゆみ』（1990年）においては、「おもなベストセラー」として、1946～1989年の期間の各年における上位10点を提示している。『日販60年のあゆみ』（2010年）においても、「ベストセラー」として、1946～2009年の期間の各年における上位10点を記載している。

これら日販のベストセラーリストは、日販発足以前の日配時代の1946～48年もカバーしている。

ここで、1946～48年における「トーハン・リスト」と「日販リスト」を比較参照してみよう。

日販のリストは、先にみたように、この期間のリストは「順位不確定」とあるが、提示順を順位と理解する。1946年は、この2つのベストセラーリストは全く同一である。1947年では、2つのリスト（表4）は、第1位、第2位は同じだが、第3位以下は順位が異なる。

表4 トーハンリストと日販リストの比較

1947年

	トーハン	日販
1	旋風二十年	旋風二十年
2	愛情は降る星のごとく	愛情はふる星のごとく
3	完全なる結婚	凱旋門 (上・下)
4	凱旋門	夏目漱石全集 (11)
5	夏目漱石全集	人生論ノート
6	人生論ノート	自叙伝 全3巻
7	風知草	キュリー夫人伝
8	自叙伝	風知草
9	哲学ノート	完全なる結婚
10	キュリー夫人伝	荷風日歴 (上・下)

『東販二十年史』『戦後のベストセラー 1946 - 1995』より作成

1948年

	トーハン	日販
1	斜陽	愛情はふる星のごとく
2	愛情は降る星のごとく	斜陽
3	凱旋門	新書太閤記
4	太閤記	罪と罰
5	罪と罰	凱旋門 (上・下)
6	女の一生	親鸞
7	親鸞	夏目漱石全集 (14)
8	若きヴェルテルの悩み	生きゆく道
9	夏目漱石全集	この子を残して
10	復活	望みなきに非ず

1947年に同じ

また上位10点のうち9点は同じだが、残りの1点は違う。すなわち、「トーハン・リスト」の『哲学ノート』と「日販リスト」の『荷風日歴 (上・下)』である。

1948年 (表4) の比較では、同一の順位であるものはない。上位10点のうち、3点が異なる。すなわち、「トーハン・リスト」の『女の一生』、『若きヴェルテルの悩み』、『復活』と、「日販リスト」の『生きゆく道』、『この子を残して』、『望みなきに非ず』である。

ベストセラーリストの考察

②ベストセラーリストの作成・公表の目的

日販のマーケティング本部書籍部出版宣伝課課長、浅羽智明氏は、ベストセラーリストの作成・公表の意図について、まとまった文書などはないが、以下のような目的が考えられると述べた。

- ① 読者及び取引書店への情報提供
- ② 読書推進および販売促進
- ③ 企業のイメージアップや文化の発信

①や②は、最終的には、書籍の販売拡大に通じる実利的な意図とも考えられる。

③ベストセラーリストの作成方法

① POS システム導入前

日販についても、トーハンと同様、POS システム導入で、ベストセラーリストの作成方法は大きく変わったと推測される。しかしながら、現段階では、POS 導入以前についての状況は詳らかではない。

ただ、1990 年代の初め頃、「出版社の製作部数」、「日販の仕入れ部数」、「一部の POS システムによって得られた販売情報」をもとに、ベストセラーリストが作成されたという。

② POS システム導入後

日販の取引書店約 3000 店の POS 販売データを中心に、全国の書店における販売状況を総合的に勘案して作成している。

「総合」のリストは、「全集」「文庫」を対象としていない。日販のリストでは、先にも紹介した『新・人間革命』は「全集」とは扱っていない。「文庫」については、基本的に 2 次出版であること、それから、同一の単行本が販売されている場合、混乱の可能性があるから除外しているという。

一方、「学習参考書」や「辞書」は基本的に対象としている。マンガ本（コミックス）は、流通上「雑誌扱い」は除外するが、「書籍扱い」は対象とする。この他、「ゲーム攻略本」「児童書」「絵本」「実用書」なども対象としている。

④ベストセラーリストと特徴

日販のリストは、先にみたように、その取引書店約 3000 店の POS データを基礎としている。表 5 にみられるように、「年間ベストセラー」、「上半期ベストセラー」、「月間ベストセラー」、「週間ベストセラー」の 4 種のリストを作成・公表している。

これらのジャンルは、「総合」「単行本フィクション」「単行本ノンフィクション他」「単行本実用」「単行本ビジネス」「新書フィクション」「新書ノンフィクション」「ゲーム攻略本」「文庫」「コミック」の 10 である。

その「総合」リストは、「文庫」や「全集」を対象としていない。

表5 日販のベストセラーリスト一覧

	年間 ベストセラー (前年12/1～ 当年11/末まで)	上半期 ベストセラー (前年12/1～ 当年5/末まで)	月間 ベストセラー (毎月)	週間 ベストセラー (毎週)
総合*	○	○	○	○
単行本 フィクション	○	○	○	○
単行本ノン フィクション他	○	○	○	○
単行本実用	○	○	○	—
単行本ビジネス	○	○	○	○
新書 フィクション	○	○	○	○
新書ノン フィクション	○	○	○	○
ゲーム攻略本	○	○	○	—
文庫	—	—	○	○
コミック	—	—	—	○

* 「全集」「文庫」は除く。
「公式サイト」などより作成

(4) 出版科学研究所

出版科学研究所は、「年間」のベストセラーリストを『出版指標年報』に、「月間」のそれを『出版月報』にそれぞれ掲載している。この出版科学研究所は、はじめ、東販の一部署として設立された。すなわち、1950年の定時株主総会で、「……東販5ヶ年計画の一つとして、出版科学研究所の構想を発表した」、これは「困難な出版物の市場調査をはじめ、需要供給の調整研究その他出版物の総合的な調査を目的とした機関の設置は業界に大きな反響をよんだ¹⁷⁾」。このようにして、1951年2月、出版科学研究所が開設された¹⁸⁾。

これより、10年以上たった1969年、同研究所を「公の機関にして、研究の普遍拡充と公共の利用に徹するため」、社団法人全国出版協会に移譲され、「社団法人全国出版協会・出版科学研究所」となった¹⁹⁾。ちなみに、2013年には、この社団法人は公益社団法人となった。

① ベストセラー調査の歴史

『出版指標年報』の創刊号は、その『1958年版』（1960年4月8日発行）である。これには、「ベストセラーズ」と題して、1955年から1958年までの各年のベストセラーの第1位から第10位までがカバーされている。1963年から、「週間」のリストを『出版月報』に掲載するようになる。

ベストセラーリストの考察

『1984版』より、遡って「戦後のベストセラーズ（昭和21～58年）」として、1946年以降のベストセラーリストを掲載している。東販発足後の1950年以降のリストは、東販によるものと考えられる。しかし、それ以前の1946～49年のデータの根拠は不明だという²⁰⁾。

ところで、『出版指標年報』のベストセラーリストは、表6のように、時期によってその対象や点数が異なる。1985年以降、単行本と全集本を分け、単行本については上位30点を挙げている。

表6 『出版指標年報』のベストセラーリスト

	範囲	備考
1946～1960年	10点	単行本と全集を統合
1961～1984	10	単行本のみ
1985～	30	単行本のみ、全集は別リスト

注1 単行本には叢書の新書も含む。

注2 1996年以降はゲーム攻略本を含まない。

注3 複数巻のものについては、それぞれ1点としたもの、
まとめて1点としたものがある。

川井良介「ベストセラーリストの分析（予備的研究）」

以下で述べるように、『出版指標年報』のベストセラーは、1985年までは売上部数を絶対とするトーハンのベストセラーリストを借用していたため、同じランキングであった。

しかし、今日では、『年報』のベストセラーリストは、「大人の読書傾向を明らかにしようとするものであり、社会の状況を映す鏡²¹⁾」を意図しているという。したがって、③で明らかにするように、いくつかのジャンルの本を対象としていない。

ここで、単純に降点順の「トーハン・リスト（総合）」と「年報リスト（単行本）」を比べてみよう。2013年の年間ベストセラー上位20点は、表7で示される「トーハン・リスト」にありながら「年報リスト」にないのは、第8位『とびだせ どうぶつの森 かんぺきガイドブック』、第13位『とびだせ どうぶつの森 ザ・コンプリートガイド』、第16位『世界のなめこ図鑑（通常版）』『続・世界のなめこ図鑑（通常版）』『続・世界のなめこ図鑑』、第17位『とびだせ どうぶつの森 超完全カタログ』である。これらは、いずれもゲーム攻略本であり、「年報リスト」では対象としていない。このように、『年報』のベストセラーは先のベストセラーリストのコンセプトを実現している。

②ベストセラーリストの作成・公表の目的

出版科学研究所の「事業目的」に、「①出版の生産、輸出及び市場に関する調査、研究並びに各種統計等関連資料の作成及び刊行②出版科学研究所を運営し、出版に関する情報収集及び提供を行う」とあるが、ベストセラーリストの作成・公表は、これらの事業目的に従うものであろう。

表7 「トーハン・リスト」と「年報リスト」の比較 (2013年)

	トーハン (総合)	年報 (単行本)
1	医者に殺されない47の心得	医者に殺されない47の心得
2	色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年	色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年
3	聞く力 心をひらく35のヒント	聞く力 心をひらく35のヒント
4	海賊とよばれた男 (上・下)	海賊とよばれた男 (上・下)
5	ロスジェネの逆襲	ロスジェネの逆襲
6	新・人間革命 (25)	新・人間革命 (25)
7	人間にとって成熟とは何か	人間にとって成熟とは何か
8	とびだせ どうぶつの森 かんぺきガイドブック	できる大人のモノの言い方大全
9	できる大人のモノの言い方大全	置かれた場所で咲きなさい
10	置かれた場所で咲きなさい	未来の法
11	未来の法	スタンフォードの自分を変える教室
12	スタンフォードの自分を変える教室	ホテルローヤル
13	とびだせ どうぶつの森 ザ・コンプリートガイド	野心のすすめ
14	ホテルローヤル	謎解きはディナーのあとで (3)
15	野心のすすめ	伝え方が9割
16	世界のなめこ図鑑 (通常版) 続・世界のなめこ図鑑 (通常版) 続・世界のなめこ図鑑	雑談力が上がる話し方
17	とびだせ どうぶつの森 超完全カタログ	夢をかなえるゾウ (2)
18	謎解きはディナーのあとで (3)	別れる力 大人の流儀 (3)
19	伝え方が9割	心
20	雑談力が上がる話し方 30秒でうちとける会話のルール	統計学が最強の学問である

「トーハン」の公式サイト、『出版指標年報 2014年版』より作成

ベストセラーリストの考察

③ベストセラーリストの作成方法

上記の「①ベストセラー調査の歴史」でも述べたように、『出版指標年報』のリストは、トーンハンのベストセラーリストに基づいている。しかし、前述したベストセラーリストのコンセプトに基づき、その基本的リストである「戦後のベストセラーズ」は、児童書、絵本、マンガ本、ゲーム攻略本、教科書、学習参考書、辞書、実用書、文庫本などの本を除外²²⁾している。

④ベストセラーリストと特徴

出版科学研究所のリスト「戦後のベストセラーズ」は、「年間」のみである。これは、トーンハンのリストに基づいて作成され、「総合（単行本）」と「全集」をカバーしている。「戦後のベストセラーズ」の「総合」は、前述したように「大人の読書傾向を明らかにしようとするものであり、社会の状況を映す鏡」を意図している。これは、他のベストセラーリストとは大きく異なる点である。このリストは、文庫本などを除いた総合ベストセラーリストである。

この「戦後のベストセラーズ」リスト以外にも、近年は、「売れ行き良好書」として、「哲学・心理・宗教」「社会科学」「自然科学書」「コンピュータ書」「タレント本」「ゲーム関連書」「文庫本」「新書ノンフィクション」「ノベルス」「児童書（読み物・児童文庫）」「児童書（絵本・図鑑・キャラクター）」「震災関連書」の12ジャンルのリストを掲載している。また、ベストセラーリストとして、「ビジネス書」「生活実用書」「文学」も公表している。さらに、『出版指標年報2014年版』には「戦後のベストセラー 最新ランキング」が掲載されている。

「哲学・心理・宗教」「社会科学」「自然科学書」などのジャンル別リストは、他社では見られない特色である。

(5) オリコン

①ベストセラー調査の歴史

2007年、ヒットチャートなど音楽情報サービスを提供するオリコン（株）は、文教堂など6チェーン書店と構成するJapan book of the year 実行委員会の名前で、加盟書店の販売データを集計したランキング「Japan book of the year 2007」を発表した²³⁾。

このランキングは、文教堂グループ228店、くまざわ書店グループ185店、三洋堂書店89店、精文館書店43店、明屋書店90店、フタバ図書39店の合計674店によるものである。これらの書店のシェアは約20%だという。対象期間は2007年1月1日から12月10日までである。

ランキングの種類は、「総合」「単行本」「タレント本」「写真集」「コミックス」「作家別」である。

これらのランキングについてオリコンの社長は、「書籍は最も古い歴史を持つコンテンツ

であり、最もコアになる文化だと思うが、全国標準のランキングがなかった」「消化部数に基づく全国標準レベルの、本当にヒットした本の価値あるランキングが出来た」と、その意義を述べている。

このランキングは、2008年の推定部数付の「オリコンブックランキング」を経て、現在の「オリコン本ランキング」²⁴⁾になる。

「オリコンブックランキング」の調査協力書店は、旭屋書店、アニメイト、紀伊國屋書店、くまざわ書店、コミックとらのあな、三省堂書店、三洋堂書店、セブンアンドワイ、TSUTAYA、明屋書店、フタバ図書、丸善、未来屋書店、八重洲ブックセンター本店、有隣堂、リブロ、ワンダーなどの1554店であり、全国の書籍マーケットシェアの約30%を占めるといふ。

ランキングの種類は、「Bookランキング」（一般書籍。コミックと文庫を除く）、「コミックランキング」（単行本コミック、文庫コミック）、「文庫ランキング」（コミックを除く）、「新書ランキング」、「ビジネス書ランキング」である。

②ベストセラーリストの作成・公表の目的

先に述べたように、オリコンは、ヒットチャートなど音楽情報サービスを提供する企業である。音楽情報などエンタテインメントに特化した市場調査会社²⁵⁾である。

以下のように、無料公式サイトで書籍のベストセラー情報を公表しているが、有料の情報誌を発行したり、有料公式サイトを開設している。このようなことから、「オリコン本ランキング」の作成・公表は、それ自体ビジネス目的だと理解できるだろう。

③ベストセラーリストの作成方法

調査協力書店は表8にみるように、全国・地方書店チェーンと地域チェーン・個人店舗の1940店²⁶⁾による。これらの書店のPOSデータの販売部数が集計される。このように得られたデータに、オリコンによる独自の係数を掛けることによって、「推定週間売上部数」や、それに基づく「推定累積部数」が算出される²⁷⁾。

ところで、調査協力書店のネット通販のAmazonや楽天ブックスは、販売部数を公表していないが、オリコンには販売部数を提供しているという²⁸⁾。

なお、調査対象期間は、「週間」「月間」「上半期」「年間」であり、今日、対象期間は、月～日曜日である。

④ベストセラーリストと特徴

「オリコン本ランキング」は大きく表9「オリコン本ランキングの種類」にみるように、「Book（総合）」「コミック」「文庫」「ジャンル別」に分けられ、それぞれが、さらにより細かく分類される。これらは、原則第30位まで表示される。これらのジャンルとは別カテゴリーだが、「10大都市」ランキングとして、北海道、東北、関東、東京、東海、北信越、関西、中国、四国、九州、沖縄の地区別ランキング²⁹⁾もある。

表8 オリコン本ランキング 調査協力店一覧

全国・地方チェーン店／五十音順	
ア	旭屋書店, アニメイト, Amazon.co.jp, いまじん・白揚
カ	紀伊國屋書店, くまざわ書店 (くまざわ書店／いけだ書店／ACADEMIA), コミックとらのあな
サ	三省堂書店, 三洋堂書店, セブンネットショッピング
タ	TSUTAYA, 戸田書店
ナ	ネオ・ウイング
ハ	明屋書店, フタバ図書, ブックスタマ
マ	丸善, 未来屋書店 (未来屋書店／ミライア／ブックバーン／LE MIRAI / MIRAIYA SHOTEN)
ヤ	八重洲ブックセンター本店, 有隣堂
ラ	楽天ブックス, LIBRO
ワ	WonderGOO

2013年11月11日付現在

地域チェーン・個人店舗／五十音順
江崎書店 本店 (静岡県静岡市) 今野書店 (東京都杉並区) 聚宝堂クララ館 (東京都武蔵野市) BOOKS 隆文堂 (東京都国分寺市)

2012年4月9日付現在

「公式サイト」より作成 (閲覧2014年6月7日)

これらのベストセラーリストは「週間」「月間」「半期」「年間」「各年代」と算出される。

これらのベストセラーのデータは、表10「オリコンの主要メディア」にみるように、無料／有料、紙媒体／ネット媒体、個人向け／企業向けに分けられる。

① ネット媒体「ORICON STYLE」

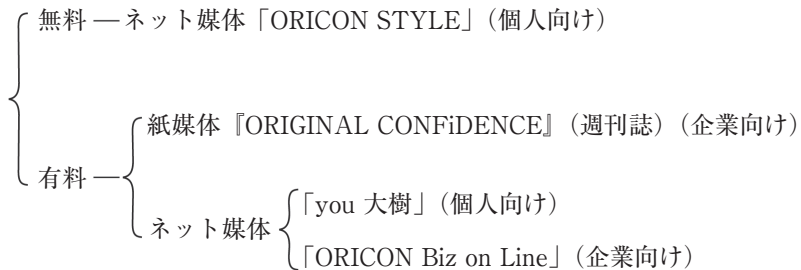
「ORICON STYLE (オリコンスタイル)」は「音楽、ランキング、動画番組、ニュース等のコンテンツをはじめ、ブログなどのサービスを提供するエンターテイメントポータルサイト」³⁰⁾である。

出版関係の情報は、「コンテンツ・メニュー」に「書籍総合」「コミック」「文庫」が表示

表9 オリコン本ランキングの種類

BOOK				
総合	新書	ムック	作家別	
コミック		文庫		
総合	シリーズ別	総合	ライトノベル シリーズ別	
ジャンル別				
ビジネス書	文芸(小説)	新書ノベルス	ライトノベル(文庫)	
タレント本	写真集	自己啓発	ファッション	
美容・ダイエット	料理・グルメ	児童書	ゲーム攻略本	
TV番組関連書籍	スポーツ関連本	コミックエッセイ	旅行ガイド	
グッズ・マルチメディア				

表10 オリコンの主要メディア



される。これらについて、2008年以降の「週間ランキング」を第30位まで検索できる。

次に、表9にある「ジャンル別」の「ビジネス書」から「グッズ・マルチメディア」まで検索できる。

なお、書名の表示には、「Amazon.co.jp」「エルパカ BOOKS」「楽天ブックス」が開設され、クリックでそれらのサイトに飛び、その本を注文できるようになっている。

⑤ 『ORIGINAL CONFIDENCE (オリジナル コンフィデンス)』(週刊誌)

同誌は1967年創刊で、「音楽を中心としたエンターテインメントの詳細なランキングデータ(音楽CD、DVD、Blu-ray Disc、書籍、文庫、コミックほか)とマーケット動向の未来予測のデータ及び記事を収録したビジネス専門誌」である。その発行部数は5000部である³¹⁾。

出版関係のデータは、「Book Top50(単行本等一般書)」、「コミック Top50(単行本及び

ベストセラーリストの考察

文庫コミック)」、「文庫 Top50」、「ビジネス書 Top15」、「文芸書 Top15」、「グッズ・マルチメディア Top15」、「コミックシリーズ別 Top15」、「文庫・ライトノベル Top15」、「スポーツ関連書 Top5」、「料理・グルメ本 Top5」が掲載されている³²⁾。

㉓ 「you 大樹」

「you 大樹」は、有料の個人向けサイトである。その紹介サイトは、「オリコンランキングをより深く楽しめる月額制情報サービスサイト」であるといい、「充実した最新ランニング!」「過去ランキングも見れる!」「累積枚数も! 便利な検索機能」「ランキングをさらに楽しむ!」³³⁾と、その効用を謳う。

そのコンテンツ・メニューにおける出版関係の情報は、「写真集」「マルチメディア書籍」「コミック・ライトノベル」「書籍・文芸」である。これらの一週間の販売部数の上位3点が提示されている。

ちなみに、月額料金は1026円である。

㉔ 「ORICON Biz on Line」

これは、法人向けの有料制の「ヒットがみえるエンタメマーケット情報サイト」である。

その紹介サイトでは、「音楽・映像・書籍 各業界の最新マーケット動向から、詳細なランニングデータ、充実の検索機能までを完全網羅!エンタテインメント業界に携わる方には必須の、法人様向け・総合マーケティングデータベースサービスです!」「音楽・映像ソフト・書籍を販売する全国の小売店様 (CD ショップ、レンタルや書籍等の複合店、各専門店、家電量販店など)、インターネット通販事業社様等からの販売データをもとに、正確かつリアルなマーケット情報およびランニングデータをお届けします。」「最新の市場動向やトレンド分析、またプロモーション戦略の立案や経営指標など、現場サイドの皆様の日常ツールとしてだけでなく、ご経営層の皆様の事業戦略ツールとしても是非ご活用ください。」と、その価値をアピールしている。

出版関係の情報は大きく3つある。すなわち、

マーケット動向データ——書籍市場の全体セールス動向、ジャンル別、エリア別、出版社別、店舗形態別の詳細やシェアなど、最新マーケット情報

ランニングデータ——週間ランニング TOP500 をはじめ、週間エリア別や出版社別セールスランキング、月間ランニング、ロングセラー、トータルセールスなど、詳細な各種ランニングデータ

検索サービス——全書籍作品を対象として、売上推移や累積部数、最高順位、ランニング登場回数などのほか、各作品ごとのエリア別シェアや店舗形態別シェア、書籍名や著者名、出版社名、出版日、ISBN (国際標準図書番号)、ジャンルや版^{ママ}型などからも検索できるとい^う³⁴⁾。

オリコンのリストの特徴の1つは、集計期間における推定売上部数を提示していることで

ある。この販売部数は、対象書店のそれであり、全体の販売部数ではないが、他のベストセラーリストにはない特徴である。

また、リストの作成・目的が営利であることから、他のリストよりも、様々なジャンルを対象にしていることや、「ORICON Biz on Line」にみられるように、クライアントのニーズに従って、多様なランキングリストを提供していることである。

C 結論

1. 要約と考察

現在、全国的なベストセラーリストは、出版ニュース社によるもの、大手取次会社トーハン及び日販によるもの、出版科学研究所によるもの、そして、全国・地方書店チェーンなどの協力によるオリコンによるものなど5つある。

これらについて、①ベストセラーリスト調査の歴史②ベストセラーリストの作成・公表の目的③ベストセラーリストの作成方法④ベストセラーリストと特徴を明らかにした。

(1) 出版ニュース社

①ベストセラーリスト調査の歴史

日本のベストセラーリストの歴史では最も古く、現在のような年間ベストセラー調査は、1951年に始まる。

②ベストセラーリストの作成・公表の目的

60年以上の歴史があり、今、これを止める特別な理由はないという。

③ベストセラーリストの作成方法

各都道府県の1店以上の有力書店を対象に、毎月、上位5点のベストセラーを選び、そのポイントを合計して「月間」のベストセラーを決定する。これらを基に「年間」ベストセラーを選出。「文庫本」は対象となるが、「マンガ本」「ゲーム攻略本」「教科書」「学習参考書」は対象としない。

④ベストセラーリストと、その特徴

ベストセラーリストは、販売部数それ自体を反映したものではなく、全国の有力書店の販売傾向を示すものである。

(2) トーハン

①ベストセラーリスト調査の歴史

1949年、東京出版販売（現トーハン）が創立された。創立以来、ベストセラーリストが作成されたと推測されるが、明確な資料があるのは1975年以降であるという。

ベストセラーリストの考察

1990年代以降のPOSシステム導入以降、その販売部数データによってリストが作成されるようになった。これによって、ベストセラー本の部数が正確に把握できるようになった。この研究では、POSシステム導入以前のベストセラーリストの作成過程を明らかにできた。

②ベストセラーリストの作成・公表の目的

その目的は以下の3点である。

- ① 出版トレンドを明らかにする
- ② 読者の選書の参考のための情報提供
- ③ マスコミの要望に応える

③ベストセラーリストの作成方法

トーハン取引書店1500店のPOSシステムによって入手された販売情報に基づいて「週間リスト」が作成される。「月間リスト」「年間リスト」については、「週間リスト」に新たな情報が加味される。第一のベストセラーリストである「総合」は、「全集」「文庫本」「教科書」「学習参考書」「辞書」「マンガ本」を対象としていない。別に、「文庫総合」という文庫本リストを作成している。

④ベストセラーリストの特徴

トーハンのリストは、その取引書店のPOSデータを基礎としている。「年間ベストセラー」「上半期ベストセラー」「週間ベストセラー」の3種類のリストを作成・公表している。

これらのジャンルは、「総合」「文庫総合」「単行本・文芸」「単行本・ノンフィクション他」「単行本・ビジネス」「単行本・ゲーム関連」「単行本・実用書」「新書・ノベルス」「新書・ノンフィクション」「全集」「コミック」の12である。

(3) 日販

①ベストセラーリスト調査の歴史

東販と同じく、1949年、日本出版販売（日販）が創立された。日販のベストセラー調査は、1956年に始まった。

②ベストセラーリストの作成・公表の目的

その目的は、以下の3点である。

- ① 読者及び取引書店への情報提供
- ② 読書推進および販売促進
- ③ 企業のイメージアップや文化の発信

③ベストセラーリストの作成方法

日販の取引書店約3000店のPOS販売データを中心に、全国の書店における販売状況を総合的に勘案して作成している。

「総合」のリストは、「全集」「文庫」を対象としていない。一方、「学習参考書」や「辞書」

は基本的に対象としている。マンガ本（コミックス）は、流通上「雑誌扱い」は除外するが、「書籍扱い」は対象とする。この他、「ゲーム攻略本」「児童書」「絵本」「実用書」なども対象としている。

④ベストセラーリストの特徴

日販のリストは、その取引書店のPOSデータを基礎としている。「年間ベストセラー」、「上半期ベストセラー」、「月間ベストセラー」、「週間ベストセラー」の4種のリストを作成・公表している。

これらのジャンルは、「総合」「単行本フィクション」「単行本ノンフィクション他」「単行本実用」「単行本ビジネス」「新書フィクション」「新書ノンフィクション」「ゲーム攻略本」「文庫」「コミック」の10である。

その「総合」リストは、「文庫」や「全集」を対象としていない。

(4) 出版科学研究所

①ベストセラーリスト調査の歴史

1951年、出版科学研究所は、東販の一部署として設立され、1969年、社団法人全国出版協会・出版科学研究所となった。2013年に公益社団法人となった。

出版科学研究所のベストセラーリストは、「年間」と「週間」がある。「年間」のリストは、『出版指標年報』に掲載される。具体的な部数のデータは、トーハン提供によるため、1985年までのベストセラーリストはトーハンと同じであったが、1986年以降のベストセラーリストのコンセプトを「大人の読書傾向を明らかにしようとするものであり、社会的状況を映す鏡」と設定し、単純な販売部数のランクとしていない。

②ベストセラーリストの作成・公表の目的

リストの作成・公表は、出版科学研究所の「事業目的」にある「出版に関する情報収集及び提供」の一例であろう。

③ベストセラーリストの作成方法

『出版指標年報』の「戦後のベストセラーズ」のリストは、トーハンのベストセラーリストに基づき作成している。このため、辞書、実用書、文庫本などの本を除外している。さらに、リスト作成のコンセプトを「大人の読書傾向を明らかにしようとするものであり、社会の状況を映す鏡」であることから、児童書、絵本、マンガ本（コミック）、ゲーム攻略本、教科書、学習参考書なども対象としていない。

この「戦後のベストセラーズ」リスト以外にも近年は、「売れ行き良好書」として、「哲学・心理・宗教」「社会科学」「自然科学書」「コンピュータ書」「タレント本」「ゲーム関連書」「文庫本」「新書ノンフィクション」「ノベルス」「児童書（読み物・児童文庫）」「児童書（絵本・図鑑・キャラクター）」「震災関連書」の12ジャンルのリストを掲載している。また、ベスト

ベストセラーリストの考察

トセラーリストとして、「ビジネス書」「生活実用書」「文学」も公表している。さらに、『出版指標年報 2014 年版』には「戦後のベストセラー 最新ランキング」が掲載されている。

(5) オリコン

オリコンは、ヒットチャートなど音楽情報サービスを提供する企業である。

① ベストセラー調査の歴史

2008 年から、オリコンのベストセラー調査「オリコン本ランキング」が始まった。

② ベストセラーリストの作成・公表の目的

無料提供の情報もあるが、企業の活動目的から営利のためである。

③ ベストセラーリストの作成方法

全国・地方書店チェーンと地域チェーン・個人店舗 1940 店の調査協力店の POS データによる。さらに、ネット通販の Amazon や楽天ブックスからもデータが提供されている。

④ ベストセラーリストと特徴

「オリコン本ランキング」の調査対象期間は、「週間」「月間」「上半期」「年間」のほか、「歴代」「過去」という。その対象は、「Book」の「総合」「新書」「ムック」「作家別」、「コミック」の「総合」「シリーズ別」、「文庫」の「総合」「ライトノベル・シリーズ別」「作家別」である。

ジャンル別では、「ビジネス書」「文芸（小説）」「新書ノベルス」「ライトノベル（文庫）」「タレント本」「写真集」「自己啓発」「ファッション」「美容・ダイエット」「料理・グルメ」「児童書」「ゲーム攻略本」「TV 番組関連書籍」「スポーツ関連本」「コミックエッセイ」「旅行ガイド」など 16 ある。

これらの考察から、以下のような点が明らかになった。

① 最も古い出版ニュース社のベストセラーリスト調査の歴史

リストにおける順位と部数の乖離

② トーハン及び日販のベストセラーリストの作成過程

③ 取次における POS 導入以前のベストセラーリスト作成過程の一端の解明

④ 出版科学研究所のリストと元データを提供しているトーハンのリストとの相異

⑤ これまで余り紹介されることがなかった「オリコン本ランキング」の実体

⑥ 全国取次の存在がベストセラーリスト作成を容易にしている

⑦ POS 利用によって、ベストセラーリストの順位が精確になったり、様々なジャンルのリスト作成を可能にした。

2. 課題

研究する過程で、以下のような課題が残された。

① ネット通販拡大におけるベストセラーリストの意味

- ②取次における POS 導入前のベストセラーリスト作成の、さらなる解明
- ③外国のベストセラーリストとの比較

このような課題の解明は、「ベストセラーリストの考察」を一層深めるものだろう。

本論文作成にあたり、出版ニュース社代表取締役の清田義昭氏、トーハン広報室アシスタントマネージャー伊藤美和氏、日本出版販売マーケティング本部書籍部出版宣伝課課長の浅羽智明氏、オリコン広報部部長中路唯史氏、同広報部本田太一氏及び文化通信編集長の星野渉氏から、数々の有益な教示をいただいた。記してお礼申し上げます。

注

- 1) 川井良介「日本のベストセラー（予備的研究）」『出版研究』No. 41 参照。
- 2) 「ハガキ問答による第一回調査の解説」『出版ニュース』1949年5月上旬号 pp.6～7。ベストセラーの地域性を把えるのではなく、単純にベストセラー＝よく売れた本ということであれば、日配は容易にベストセラーを把握できたと考えられる。「一昨年までは配本は日配（日本出版配給会社）一本建だったので発行部数は、比較的掴まれ易かった」「上半期のベストセラーズ」『週刊朝日』1951年7月8日号, p.4。
- 3) 『出版ニュース』1949年11月中旬号 p.9。『出版ニュースの五十年』p.19参照。なお、同書には、これ以外、ベストセラー調査に関する記述はない。
- 4) 『出版ニュース』1949年12月中旬号 p.9。この号の表紙には、「第二号ベストセラーズ発表」という見出しが表示されている。
- 5) 『出版ニュース』1950年2月上旬号 p.12。
- 6) 『出版ニュース』1950年3月中旬号 p.11。
- 7) 4) と同じ
- 8) 「ベスト・セラー全国調査」『出版ニュース』1950年10月上旬号 p.7。
- 9) このポイント数の算出方法についての記載は、これまで『出版ニュース』『出版年鑑』に発見することができない。『出版ニュース』編集長、清田義昭氏は、これを認めた（2011年）。
- 10) このように、出版ニュース社のリストは、部数と順位が乖離している。したがって、このリストを分析に利用した見田宗介「ベストセラーの戦後日本史」（『新版 現代日本の精神構造』弘文堂1984年所収）や辻村明『戦後日本の大衆心理——新聞・世論・ベストセラー』東京大学出版会1981年、川井良介「流行と出版」（『現代のエスプリ別冊 流行／ファッション』2000年）は、十分な説得力には欠ける。
- 11) 川井良介編『出版メディア入門 第2版』日本評論社2013年, pp.37～38。
- 12) 以下、トーハン広報室伊藤美和氏による（2013年）。
- 13) トーハンOBによる（2014年）。
- 14) 『飛翔——トーハン50年の軌跡』（2000年）p.154。
- 15) 伊藤氏による（2014年）。
- 16) 1955年の雑誌の座談会の記事は、「日販の調査課の資料（別記掲載）」が参照されている。もっ

ベストセラーリストの考察

とも、「別記掲載」の「戦後十年間に於ける年次別ベストセラーズ」においては、「日本出版協会企画調査課調べ」というクレジットがある。この「日販」が「日本出版販売」であるかどうか不明である。「ベストセラーにみる戦後十年の歩み」『労働文化』1955年10月号、p.2、pp.8～9。

- 17) 『東京出版販売十五年史』 p.50。
- 18) 『東販二十年史』 p.329。
- 19) 同上書、p.352。
- 20) 佐々木利春氏による(2013年)。
- 21) 川井良介「ベストセラーリストの分析(予備的研究)」『出版研究』No.43、2012年、p.74。
- 22) 同上。
- 23) 以下、「初の全国標準レベルのランキング」『文化通信』2008年1月14日号。
- 24) 以下、「『オリコンブックランキング』／週間販売部数を発表」『文化通信』2008年4月14日号。
- 25) 「オリコン」『ウィキペディア(Wikipedia)』(閲覧2014年6月7日)
- 26) 2014年1月現在。『オリコンランキングのご案内』p.8。
- 27) 「ORICON Biz on Line」(閲覧2014年6月7日)。
- 28) オリコン広報部長・中路唯史氏による(2014年6月6日)。
- 29) 『オリコンランキングのご案内』p.9。
- 30) 「ORICON STYLE(オリコンスタイル)」(閲覧2014年6月7日)。
- 31) 『雑誌新聞総かたろぐ 2013』p.402。
- 32) 『ORIGINAL CONFIDENCE』2014年6月9日号。
- 33) 「you 大樹」(閲覧2014年6月7日)
- 34) 「ORICON Biz on Line」(閲覧2014年6月7日)

主要参考文献

- 川井良介(2010)「日本のベストセラー(予備的研究)」『出版研究』No.41
——(2012)「ベストセラーリストの分析(予備的研究)」『出版研究』No.43
川井良介編(2013)『出版メディア入門 第2版』日本評論社
出版ニュース社編(2000)『出版ニュース社の五十年』出版ニュース社
創立十五年史編集委員会編(1964)『東京出版販売十五年史』東京出版販売
創立二十年史編集委員会編(1969)『東販二十年史』東京出版販売
創立三十年史編集実行委員会編(1979)『東販三十年史』東京出版販売
創立50周年編纂委員会社史編纂室編(2000)『飛翔——トーハン50年の軌跡』トーハン
日販(1990)『日販四十年のあゆみ——文化の流れを支えて』日本出版販売
日本出版販売社史編集事務局(2010)『日販60年のあゆみ——出版流通変革のリーダーとして』
日本出版販売
日販(1995)『戦後のベストセラー——1946-1995』日販
『オリコンランキングのご案内』oricon ME 広報本部
『出版ニュース』
『出版年鑑』

『出版月報』

『出版指標年報』

本稿は、2014年度東京経済大学個人研究助成による。